

# 鹿児島県柔道会だより

■発行人/北 哲郎 ■編集/総務部編集委員会 ■発行/財団法人鹿児島県柔道会 (電話 099-222-7770)

## 北 哲郎新会長就任

昨年の3月は、JR九州新幹線「つばめ」の乗り入れ、今年4月は、「ドルフィンポート」のオープンとこのところ「南の玄関口鹿児島」は、活気づいています。



この新しい時代の流れの中で、法元保晴会長が勇退され、4月23日の定期総会で、これまで理事長であった北 哲郎氏が、新会長に指名され就任しました。

法元保晴前会長は、昭和42年に理事長に、昭和60年からは、故林 岩三会長の後任として会長に就任され、これまで、昭和47年鹿児島太陽国体・昭和57年鹿児島高校総体柔道の総責任者として、また、昭和50年には、全国各都道府県の組織に先駆けて法人格の取得。昭和58年の「鹿児島県柔道会館（造士館）」の建設など多大な貢献をされました。

新任の北 哲郎会長は、鹿児島県警の術科師範として在任中、理事長兼強化委員長として、それまで低迷していた鹿児島県警察を九州のトップレベルにするなど、本県柔道の競技力向上に打ち込んで来られました。

昭和63年からは、理事長として、18年間法元保晴前会長を支えてこられました。

この北 哲郎会長を支えるための新体制が、次のとおり定期総会で決まりました。任期は、2年。

- 名誉会長 法元 保晴
- 会長 北 哲郎
- 副会長 木原 紀幸 (兼総務部長)
- 〃 豊永 強 (兼審議部長)
- 〃 亀丸 政弘 (兼事業部長)
- 理事長 松永 郁男
- 常務理事 宇都 克洋 (事務局長)
- 〃 堀之内俊隆 (審判委員長)

- 常務理事 山崎 逸郎 (強化部長)
- 〃 木本 洋一 (登録部長)
- 〃 徳永 正明 (ルネッサンス委員)
- 理事 田渕 巖
- 理事 柏木 茂穂 (スポーツ少年団担当)
- 〃 畑添 勉 (寄附行為・保険担当)
- 〃 安楽進一郎 (競技力向上会計担当)
- 〃 稲田 博実 (高校強化担当)
- 〃 北藤 季康 (審 議 員)
- 〃 田中 総一 (国体強化担当)
- 〃 田島 史朗 (各種大会記録担当)
- 監事 入船 次興
- 〃 牧 光紘 (顧問医)
- 顧問 林 三郎
- 〃 島中 稔
- 〃 山下 開導
- 〃 嶋田 武夫
- 〃 寺前 弘道
- 〃 林 岩男
- 〃 入来 敦久 (顧問医)
- 評議員 寺口 時雄 (鹿児島支部長)
- 〃 屋敷平勝正 (鹿児島支部)
- 〃 田中 勇吉 (〃)
- 〃 米満 忠 (〃)
- 〃 吉留 義幸 (〃)
- 〃 田邊 侑 (〃)
- 〃 吉井 朗 (〃)
- 〃 和田 茂市 (〃)
- 〃 吉田 義博 (〃)
- 〃 福元 雅一 (〃)
- 〃 中園 雅博 (〃)
- 〃 林 岩宏 (〃)
- 〃 宮久保美鈴 (〃)
- 〃 田川 盛二 (奄美支部長・事務局)
- 〃 房永 満亘 (奄美支部)

評議員	太利 憲吾 (奄美支部)	審議委員	松永 郁男
"	田下 實 (熊毛支部長)	"	堀之内俊隆
"	蓮子 昭夫 (熊毛支部)	"	山崎 逸郎
	鎌田 哲二 ( " 事務局)	"	木本 洋一
評議員	島 猛 (出水支部長)	"	徳永 正明
"	山下 光春 (出水支部)	"	北薗 季康
"	森 浩一郎 ( " )	"	田中 総一
	田淵 巖 ( " 事務局)	強化委員 (委員長)	山崎 逸郎
評議員	慶越 武則 (阿久根支部長)	" (事務担当)	安楽 進一郎
"	佐々木保法 (阿久根支部)	"	小林 義弘
	古賀 正男 ( " 事務局)	"	田中 総一
評議員	小辻 富義 (川内支部長)	"	福元 雅
"	吉内 一夫 (川内支部)	"	中薗 雅博
"	平 善行 ( " )	"	濱田 初幸
	吉内 孝徳 ( " 事務局)	"	中村 勇
評議員	畦元 徹郎 (日置支部長)	"	和田 茂市
"	田村 勉 (日置支部)	"	稲田 博実
"	井川 秋義 ( " )	"	長倉 幸造
	南 昌治 ( " 事務局)	"	吉村 智之
評議員	矢野 希 (南薩支部長)	"	熊井 康浩
"	松野下 崇 (南薩支部)		
"	籠原 憲男 ( " 事務局)		
"	田村 信弘 (指宿支部長)		
"	平川 善治 (指宿支部)		
	石田 康祐 ( " 事務局)		
評議員	森 好郎 (大口支部長)		
"	河野 辰男 (大口支部)		
	益満 亮太 ( " 事務局)		
評議員	小妻 幸造 (始良支部長)		
"	木上 洋臣 (始良支部)		
"	内村 秀樹 ( " )		
	末満 盛家 ( " 事務局)		
評議員	山川 賢朗 (肝付支部長)		
"	小手川清廣 (肝付支部)		
"	宮ヶ原秀一 ( " 事務局)		
"	飛松 義忠 (曾於支部長・事務局)		
"	絞島 芳美 (曾於支部)		
"	花堂 信隆 ( " )		
鹿児島県柔道会事務局書記	絞島 明美		
審議委員 (審議部長)	豊永 強		
"	木原 紀幸		
"	宇都 克洋		
"	亀丸 政弘		

### 本部・支部昇段試験の日程

- ・ 6月26日 (日) 始良支部 (徳永 正明)
- ・ 7月24日 (日) 指宿支部 (堀之内俊隆)
- ・ 7月31日 (日) 本 部
- ・ " 南薩支部 (徳永 正明)
- ・ " 出水支部 (松永 郁男)
- ・ " 曾於支部 (田中 総一)
- ・ 8月 7日 (日) 肝付支部 (堀之内俊隆)
- ・ 8月21日 (日) 日置支部 (木本 洋一)
- ・ " 奄美支部 (北 哲郎会長)
- ・ " " (北薗 季康)
- ・ 8月28日 (日) 川内支部 (山崎 逸郎)
- ・ 11月13日 (日) 阿久根支部 (山崎 逸郎)
- ・ 11月27日 (日) 始良支部 (豊永 強)
- ・ 12月11日 (日) 熊毛支部 (木原 紀幸)
- ・ 1月15日 (日) 本 部
- ・ 1月15日 (日) 川内支部 (木本 洋一)
- ・ 1月29日 (日) 南薩支部 (山崎逸郎)
- ・ " 日置支部 (田中 総一)
- ・ " 肝付支部 (宇都 克洋)
- ・ 未 定 大口支部

※ 日程、審査員が、変更されることもあります。

## 北 哲郎会長の就任 とこれからの抱負

年頭にあたり、法亢保晴会長から、理事長の私に「17年度は役員改選期である。今後も私が会長職を継続することは、年齢的な面、体力・気力の面から見て無理がある。今限りで退任するので、長年理事長として私を支えてくれたあなたが、会長を引き受けてくれ。」と申し渡され、次期の体制の青写真を発表されました。

会長 北 哲郎

副会長 木原 紀幸

副会長 豊永 強

そして、その他の人事は、3人で考えるように指示がありました。

これまで、柔道会館には堀之内事務局長夫婦が住み込みですべての業務をやってもらっていましたが、教職員の定年を期にこの職を辞退したいという申し出があり、柔道会館を引き揚げることになりました。後任の選定もままならず、これまでにない大幅な組織の改革をもってこの難局を乗り切ることにいたしました。

主な組織の改革として、副会長を3人体制として、部長を兼務させて仕事の任務分担を明確にしました。

また、これまでの事務局長の柔道会館への常時住み込みを止め、書記を週5日雇用して、対応することにしました。

## これからの抱負

柔道の大先輩で尊敬する法亢保晴前会長の後任として会長職を拝命することになり、その責任の重さをひしひしと感じております。戦後幾多の有名選手を輩出した歴史と伝統のある財団法人鹿児島県柔道会を、これまで以上に発展させていく覚悟でおります。そのために、次のことを念頭において

課題解決のための精進努力することを決意しています。

- 1 競技力の向上と柔道を通じた青少年の育成
- 2 柔道人口の増大（女子柔道の振興）
- 3 指導体制の確立（指導者養成と資質向上）
- 4 スポーツ少年団の育成（特色ある少年団組織の構築）
- 5 広報活動の推進（「鹿児島県柔道会だより」の発行）

以上の5点を重点課題とし、この実現に向けて、私をはじめ全役員が一丸となって、精進努力する覚悟です。県内柔道関係者の皆様方のこれまで以上の御指導と御協力を伏してお願い申し上げます。

## 「柔道指導者講習会」報告

県柔道会では、県総合体育センターとの共催で毎年「柔道指導者講習会を開催しております。今年も5月17日と18日の2日間にわたって県総合体育センターの武道館で受講者100余人が参加して行われました。

1日目は、午前中に総合体育センターの西川達也所長の「柔道ルネッサンス」についての講話がありました。内容は、次のようなものであり、受講者にこれからの柔道指導の在り方に示唆を与えました。

- 1 「柔道ルネッサンス」との出会い
  - ・ 「礼は美しい柔道の心」柔道ルネッサンス実行委員会
- 2 「ルネッサンス」とは
  - ・ 再生の意 文芸復興 学芸復興
- 3 「柔道ルネッサンス」の目的

講道館・全日本柔道連盟は、競技としての柔道の発展に努力を傾けることはもちろん、ここに改めて嘉納治五郎師範の理想に思いを致し、ややもすると勝ち負けのみに拘泥しがちな昨今の柔道の在り方を憂慮し、師範の理想とした人間教育を目指して、合同プロジェクト「柔道ルネッサンス」を立ち上げる。その主目的は、組織的な人づくり・ボランティア活動の実施であり、本活動を通して、柔道のより総合的普及発展を図ろうとするものです。

午後からは、「実技Ⅰ 投げの形 指導者 鶴丸 高校 吉田 義博教諭」、「実技Ⅱ 固の形 指導者 鹿児島国際大学 亀丸 政弘教授」が、前後半に分けて実施され、受講者が熱心に受講しました。

2日目は、午前中に「講義Ⅰ 講道館柔道試合審判規程について 指導者 県警術科師範 山崎 逸郎 師範」と「実技Ⅲ 柔の形 指導者 鹿児島大学 松永 郁男教授」が前後半に分けて指導された。特に「柔の形」は、女子柔道の初段の昇段試験には必須とあって、男子の指導者の先生方は、額に汗を流しながら、熱心に受講しました。

午後からは、「講義Ⅱ 国際柔道連盟試合審判規定について 指導者 鹿児島大学 松永郁男教授」が指導された。規定の改正がなされたところに質問が集中し、多くの質問が出る中で、有意義で活発な講義でありました。

最後は、「実技IV 審判法」があり、高段者試合を審判しながら、判定やゼスチャー等の誤りについて、指導がなされました。

この指導者講習会は、毎年5月の中旬に指導者の資質向上のために開催されており、各支部の柔道会役員・学校の教師・警察や刑務所・一般の柔道関係者などが、県内の各地から集まり、参加者も毎年100人を越えています。

## 「法亢保晴先生御勇退祝賀会」

### 報告

去る5月28日(土)午後6時から鹿児島市のアクアガーデンホテル福丸において、柔道関係者100余名が集い祝賀会が盛大に行われた。

#### 1 県柔道会長あいさつ

昭和21年に鹿児島県柔道会が設立されて以来、県柔道会の中核の役員として、幾多の功績を残されたことや今後名誉会長として、大局的な見地から御指導をお願いしたい旨のあいさつがあった。

#### 2 感謝状贈呈

法亢保晴先生のこれまでの功績に対しての講道館長・全日本柔道連盟会長嘉納行光先生からの感謝状と金バッジ贈呈があり、これを北哲郎会長から伝達された。感謝状の内容は、次のとおり。

「貴殿は、嘉納治五郎師範を心から敬愛し、多年にわたり正しい柔道の発展に専心して来られました。

今後後進に道を譲るため柔道界の第一線から、勇退されましたが、今後呉をも御自愛の上高所より一層の御盡力をお願い致します。

茲に、柔道界に対する今日までの御功績を多とし、感謝の意を表します。」

#### 3 記念品目録贈呈

出席者・賛同者一同より、晩酌用銘酒一生(?)分を贈呈。目録が、北哲郎会長から伝達された。

#### 4 花束贈呈

ホテル福丸の社長代理永野明子さんから、花束が贈呈されました。

#### 5 法亢保晴先生謝辞

お礼のことばと名誉会長として、これからも柔道会のために役立ちたい旨のあいさつがあった。

#### 6 祝電披露

- ・ 講道館長・全日本柔道連盟会長 嘉納 行光様
- ・ 全日本柔道連盟副会長・専務理事松下 三郎様

- ・ ベアーズセキュリティ社長 田中 雅昭様

#### 7 感謝のことば

門人を代表して、木原 紀幸副会長が、感謝のことばとお祝いの曲「柔」の尺八演奏を行った。

#### 8 花の御披露

法亢保晴先生や出席者から、金一封、飲み物、会場を彩る洋蘭などたくさんの寄贈があった。

#### 9 乾杯の音頭

嶋田 武夫顧問の音頭で、乾杯をした。

#### 10 祝宴

- ・ テーブルスピーチ

永年法亢保晴先生の薫陶を受けてきた松永郁男理事長が、学生時代から今日までの先生との思い出や先生のお人柄の紹介があった。

- ・ 余興

#### 11 万歳三唱

寺前 弘道顧問の万歳三唱で華やかな祝賀会を開きにした。 (報告 豊永 強)



#### 「編集後記」

今年度から、「鹿児島県柔道会だより」を発信することになった。準備に手間取り、創刊号は、6月20日になりました。3ヶ月に1回を目標に発信したいと思っています。

発信する内容については、次のようなことを考えています。

- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 柔道少年団の活動状況
- ・ 柔道ルネッサンス
- ・ 特出した柔道試合の成績
- ・ その他の記事

各支部や柔道少年団・学校へも記事を依頼することがありますので、その時は、快く、敏速に記事を送ってください。よろしくお願ひします。

[文責 畑添]